

第2回 道南地域公共交通活性化協議会総会【議事録】

日時:令和5年8月3日(木)10:30~11:10【オンライン開催】

出席:・渡島・檜山管内市町(函館市、北斗市、松前町、福島町、知内町、七飯町、鹿部町、八雲町、長万部町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町、今金町、せたな町)

・交通事業者(函館バス(株)、有限会社東ハイヤー、北海道旅客鉄道(株)函館支社、道南いさりび鉄道(株))

・道路管理者(国土交通省北海道開発局函館開発建設部、北海道渡島総合振興局函館建設管理部)

・北海道警察函館方面本部

・国土交通省北海道運輸局函館運輸支局

・北海道(渡島総合振興局、檜山振興局)

1. 開会

山本地域政策課長:ただいまから、第2回道南地域公共交通活性化協議会を開催します。

檜山振興局地域政策課長の山本です。はじめに、渡島総合振興局地域創生部長の寺島から一言ご挨拶させていただきます。

寺島地域創生部長:渡島総合振興局地域創生部長の寺島と申します。6月1日に着任しました。これまで道南には2回勤務した経験があり、今回で3回目の勤務となります。また道南に戻ってくることができたことを大変うれしく思っています。皆様にはお世話になりますが、よろしく願います。

さて、国が令和2年に「地域公共交通活性化再生法」を改正し、地域における公共交通の活性化・再生推進に向け、都道府県・市町村が「地域公共交通計画」の策定に努めることとしたことを受け、本道においても振興局単位での計画策定を進めてきました。これまで道内10地域の計画が完成したところです。

渡島・檜山の両地域においても、道南地域公共交通計画として、来年3月の完成を目指しているところです。前回の会議が今年3月と期間が経過したため、計画作成の趣旨について、改めてご説明すると、この計画は、複数市町村に跨がるような広域的な移動手段をどのように確保していくかということが最大の狙いです。そのためには、キャンペーンやSNSの活用といった利用促進の取組みが大変重要ですが、これは路線バスに置き換えると「補助落ちしない」ようにするための取組みといえます。一方で、利用促進の取組みをもってしても現状維持が難しい場合に、どのように移動手段を確保していくのか、路線バスでいえば、「補助落ちしそうな時」にどう対応するのか、こういった視点についても、この計画で対応の方向性をお示しできればと考えています。

来年3月までと非常に時間のない中ではありますが、本計画が道南地域全体の最適な交通体系の素地となるよう、活発な議論をいただきながら、完成を目指していくことができると考えています。本日はよろしく申し上げます。

2. 議事(1)道南地域公共交通計画(たたき台)について

山本地域政策課長:それでは早速議事に入ります。議事進行は、協議会会長の渡島総合振興局地域創生部長が務めさせていただきます。

寺島地域創生部長:それでは、次第の1「道南地域公共交通計画(たたき台)について」事務局から説明させていただきます。

大原新幹線推進室長:3月の第1回協議会では渡島版・檜山版それぞれを参考までに配布させていただきましたが、今回、統合した道南版を作成し、記載ぶりを調整していく過程で時間を要してしまい、協議会の開催が本日になりました。それでは計画のたたき台の説明に移ります。

3ページ。本計画の対象区域は、渡島総合振興局及び檜山振興局管内の全域としています。

4ページ。本計画の計画期間は令和6年度から令和10年度の5年間となっています。その下の本計画の構成ですが、本計画は8章からなっており、第1章では、計画策定の背景・目的、計画の区域、計画の期間、計画の構成を記載しています。第2章の計画の位置づけから第4章の道南地域の移動に関する現状までは、道南地域の現状を整理しています。第2章から第4章までの現状の整理をふまえ、第5章で道南地域の公共交通の課題で整理し、課題を踏まえて第6章で計画の基本的な方針・目標を定め、第7章で目標を達成するための施策・事業を記載するという構成になっています。第8章では、計画に向けた評価体制について記載しています。

5ページ。第2章では国の法制度、道の各種計画、道南地域内市町の上位・関連計画を記載しており、32 ページで本地域における公共交通の位置づけ、34 ページで本計画の位置づけを図示しています。

35 ページ。第3章は本計画を策定するにあたり考慮すべき地域特性や地域の現況を整理した章です。36 ページから 38 ページで面積・地勢・気候地域概要、39 ページから 44 ページで人口動態をまとめています。45 ページから 51 ページで通勤・通学の状況、52 ページから 58 ページで買い物の状況、59 ページから 67 ページで医療機関への受療の状況について、各種資料をとりまとめ、その分析結果を記載しています。68 ページから 70 ページで観光の状況、71 ページには運転免許の状況、72 ページには地域特性・現況から見える課題を記載しています。

73 ページ。第4章は道南地域内を運行する公共交通機関の現状を、鉄道・市電・航空・路線バス・コミュニティバス・フェリー・タクシーに分けて記載しています。84 ページ以降は、広域